



やまぐち しんや
山口 信也 さん(末広町)

石碑について詳しく知ったことで、まちの歴史により興味を持ちました。

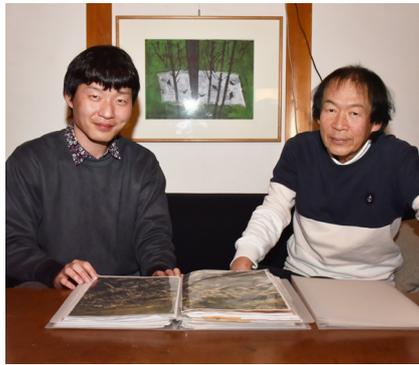
筑西市の中心に位置する下館駅。その北口に、3mもある背の高い石碑があるのをみなさんはご存知でしょうか。「**縣道改脩紀念碑**」という名称のこの碑は、今から約100年前の大正12年(1923年)に稲荷町通りの改修拡張工事を記念し建てられた貴重なものです。実は一昨年に一度姿を消し、昨年再建されました。

石碑が伝える 100年前の稲荷町通り



帰ってきた記念碑

「私はもともとから下館のまちが好きで、この碑にも注目していました。ある日突然撤去されていたことに気づき、下館の歴史に詳しい一木さんに連絡しました」と宇田川さん。調査を進めると、石碑が傾き危険なため撤去され、筑西土木事務所に保管されていることが分かりました。一木さんは「石碑を建てたということは、当時の人がこの先何代にも渡って伝えたいメッセージがあったということ。今後再建の予定もないと聞



昔の稲荷町通りの写真を見ながら話す
宇田川さん(左)と一木さん(右)

き、その思いをないがしろにしてはいけないと、市の関係課と協力し再建に向けて動き始めました」と話します。そして昨年、約1年の月日を経て、記念碑が元の位置に戻ってきました。

石碑が私たちに伝えるもの

稲荷町にはかつて蓮田が広がっていて、下館駅開業時に蓮田を埋め立ててきたのが稲荷町通りといわれています。一木さんは「通り沿い到家々が建ち並び、荷物を運ぶ牛や馬車、人が増えて手狭になり、稲荷町通りの拡張工事が行われ、それを記念して建てられたのがこの石碑です」と説明してくれました。

石碑の裏側には、当時6mだった道幅が約2倍の12mに拡張され、約80棟の建物が移動の対象だったと示されています。また、工費には地主や関係する町からの寄付があったことが記録されており、たくさんの方の協力と期待が形になった工事だったことが伺えます。



昨年8月に行われた再建工事の様子



昭和33年の稲荷町通り(丸で示したものが縣道改脩紀念碑)
撮影：赤尾栄造

宇田川さんは「この記念碑は、稲荷町通りの歴史を語る証人だと思います。自分たちのまちを知るきっかけにもなるので、無事元の位置に戻ってきてうれしいですね」と笑顔で話してくれました。

取材を終えて

この記念碑は、偶然にも再建された昨年からちょうど100年。当時の人達は今の稲荷町通りを見てどんなことを感じるだろうか、下館駅から通りを望みながらふとそんな考えが頭に浮かびました。今後はまちを歩きながら、周辺の石碑にも注目してみようと思います。